

## 4 肺がんの推移

最新年（3年分）の岩手県の肺がんの年齢調整死亡率は、がんの主要部位別死因の男女総数及び男性で第1位、女性では第3位となっている。

最新年は829人が肺がんで死亡しており、内訳としては、男性が565人、女性が264人で、男性が300人ほど多い状況となっている。

岩手県肺がん死亡数最新値（H28年）829人  
 内訳 男性：565人  
 女性：264人

昭和60年から平成27年までの全国及び岩手県の肺がんの年齢調整死亡率の推移を示す（図70）。

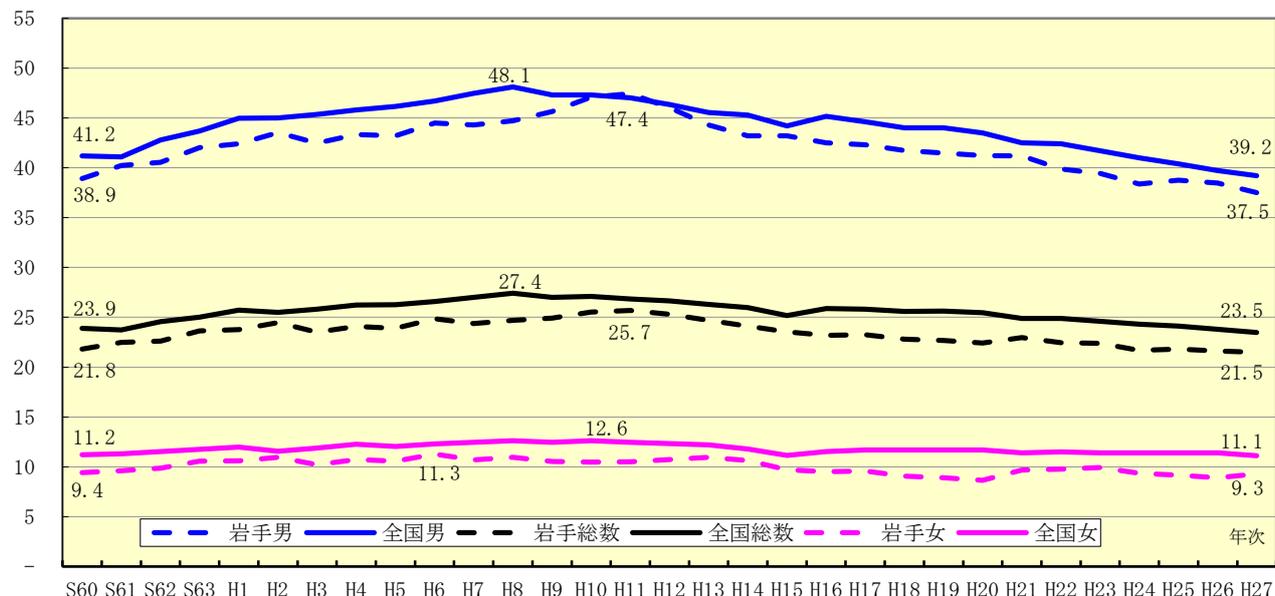
肺がんは、全国及び岩手県の男女総数及び男女別で、ほぼ横ばいとなっている。

男女別では、最新値で、男性が女性の約4倍程度となっている。

全国との比較では、僅かに全国を下回って推移している。

率(人口10万対)

図70 肺がんの年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）の推移



同じく、昭和60年から平成27年までの全国及び岩手県の肺がんの65歳未満の年齢調整死亡率の推移を示す（図71）。

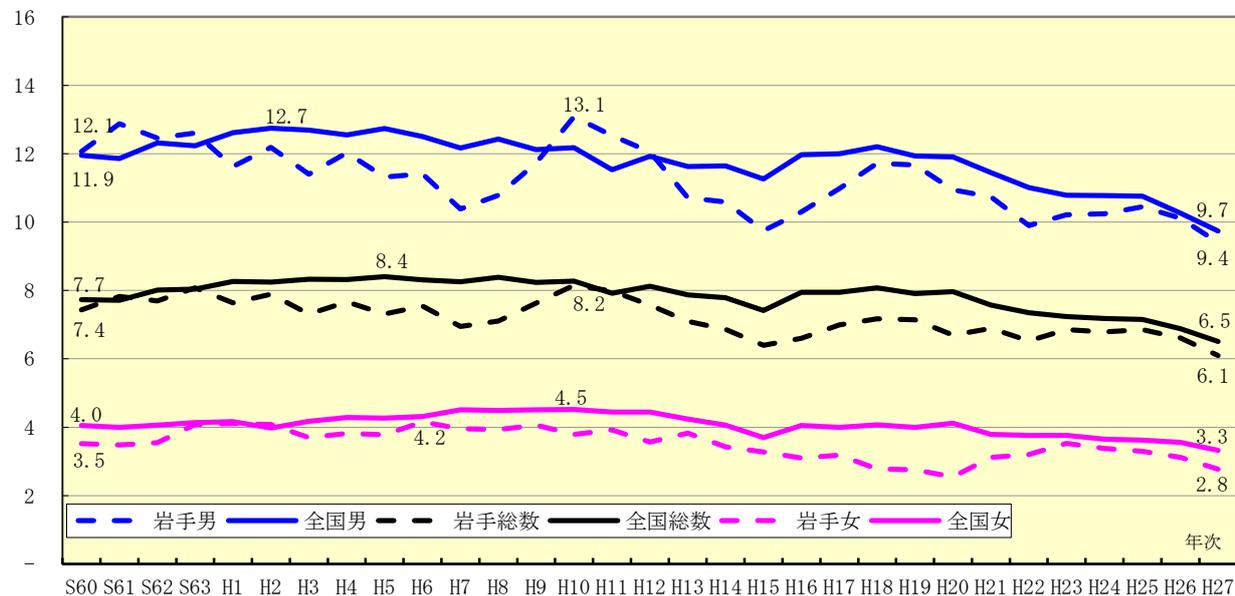
65歳未満の肺がんは、年次により若干の増減があるものの、僅かに減少している。

男女別では、最新値で、男性が女性の3倍程度となっている。

全国との比較では、僅かに全国を下回って推移している。

率(人口10万対)

図71 65歳未満の肺がんの年齢調整死亡率(岩手県のみ3年分)の推移



平成8年から最新年までの約20年の保健所別肺がんの死亡数を表36に示す。

年次により多少の増減はあるものの、釜石保健所管内では減少、久慈保健所管内及び二戸保健所管内は横ばい、それ以外の保健所管内では増加となっている。

表36 保健所別年次別肺がん死亡数(単位:人)

	H8	H13	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H8年との差	H8を100とした際のH28の割合
県央	144	184	229	207	233	213	261	253	246	102	170.8
中部	104	103	140	115	137	136	140	125	140	36	134.6
奥州	57	70	85	98	93	88	95	101	105	48	184.2
一関	89	99	90	101	106	89	85	98	106	17	119.1
大船渡	43	45	52	66	61	67	58	54	70	27	162.8
釜石	32	48	39	42	28	32	28	35	22	-10	68.8
宮古	41	60	49	56	72	47	55	67	69	28	168.3
久慈	36	32	38	32	39	49	39	43	33	-3	91.7
二戸	38	37	28	40	39	40	39	47	38	0	100.0
岩手県	584	678	750	757	808	761	800	823	829	245	142.0

5年刻み

次に、平成8年から最新年までの約20年の保健所別年齢調整死亡率を表37に示す。

年次により多少の増減はあるものの、宮古保健所管内は若干の増加、奥州保健所管内及び大船渡保健所管内は横ばい、それ以外の保健所管内は減少となっている。

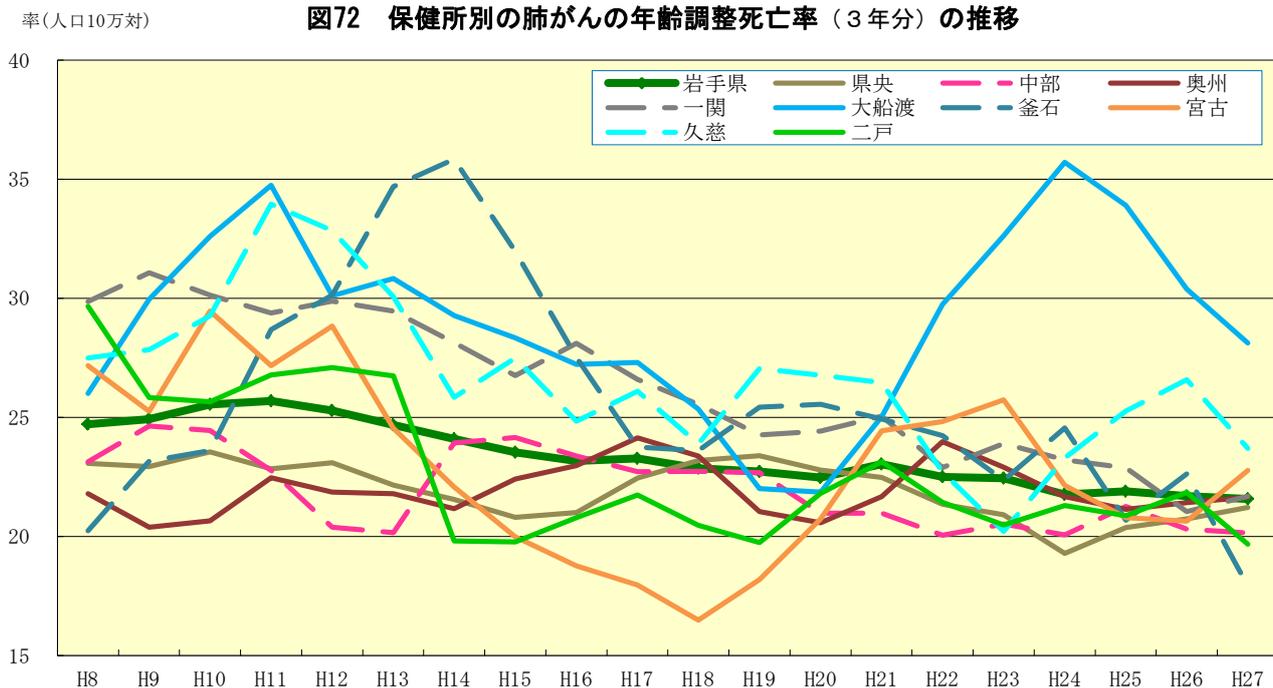
表37 保健所別年次別肺がん年齢調整死亡率(単年：人口10万対)

	H8	H13	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H8年との差	H8を100とした際のH28の割合
県央	22.2	23.5	24.4	19.3	21.3	17.4	22.4	22.4	18.8	-3.4	84.7
中部	25.0	20.8	25.4	17.7	21.5	21.0	21.4	18.5	20.5	-4.5	82.0
奥州	20.4	20.6	25.7	23.2	20.8	21.1	21.8	21.2	21.6	1.2	105.9
一関	31.1	31.0	21.6	20.7	25.8	23.2	19.4	20.6	25.3	-5.8	81.3
大船渡	27.3	25.4	25.7	37.8	34.0	35.6	32.0	23.8	29.0	1.7	106.0
釜石	22.7	32.9	24.7	29.0	19.3	25.3	17.1	25.7	11.2	-11.5	49.4
宮古	19.9	28.0	16.6	21.8	27.0	17.7	17.4	26.3	24.6	4.7	123.7
久慈	32.1	24.3	29.8	17.6	21.7	30.1	24.1	25.4	21.9	-10.3	68.1
二戸	26.9	22.5	15.0	20.7	18.1	25.0	19.2	21.6	19.1	-7.8	70.9
岩手県	24.5	24.6	23.6	21.3	22.7	21.3	21.6	22.1	21.0	-3.5	85.8

┌──────────┐  
5年刻み

平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別の肺がん総数（図72）及び65歳未満（図73）の年齢調整死亡率の推移を示す。

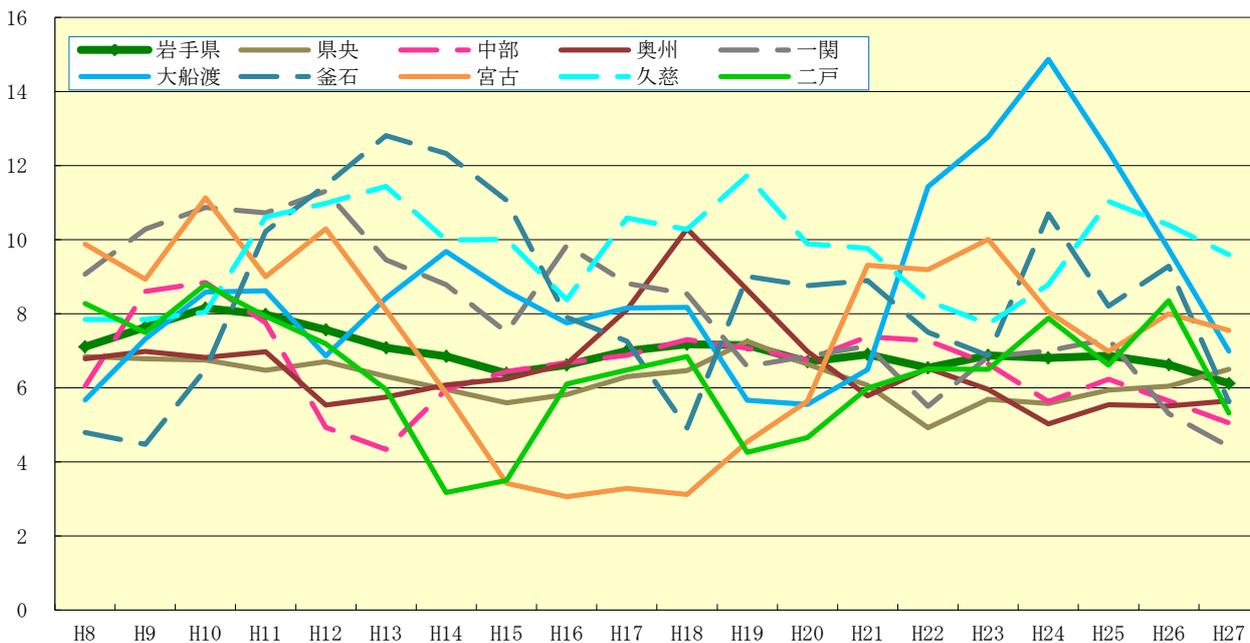
図72 保健所別の肺がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所ごとの相違がわかりにくいことから15からの設定とした

率(人口10万対)

図73 保健所別の65歳未満肺がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移



さらに、最新年（3年分）の肺がん総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図74）。

肺がん総数の年齢調整死亡率で最も高いのが大船渡保健所管内であり、最も低い釜石保健所管内とは10.2の差となっている。

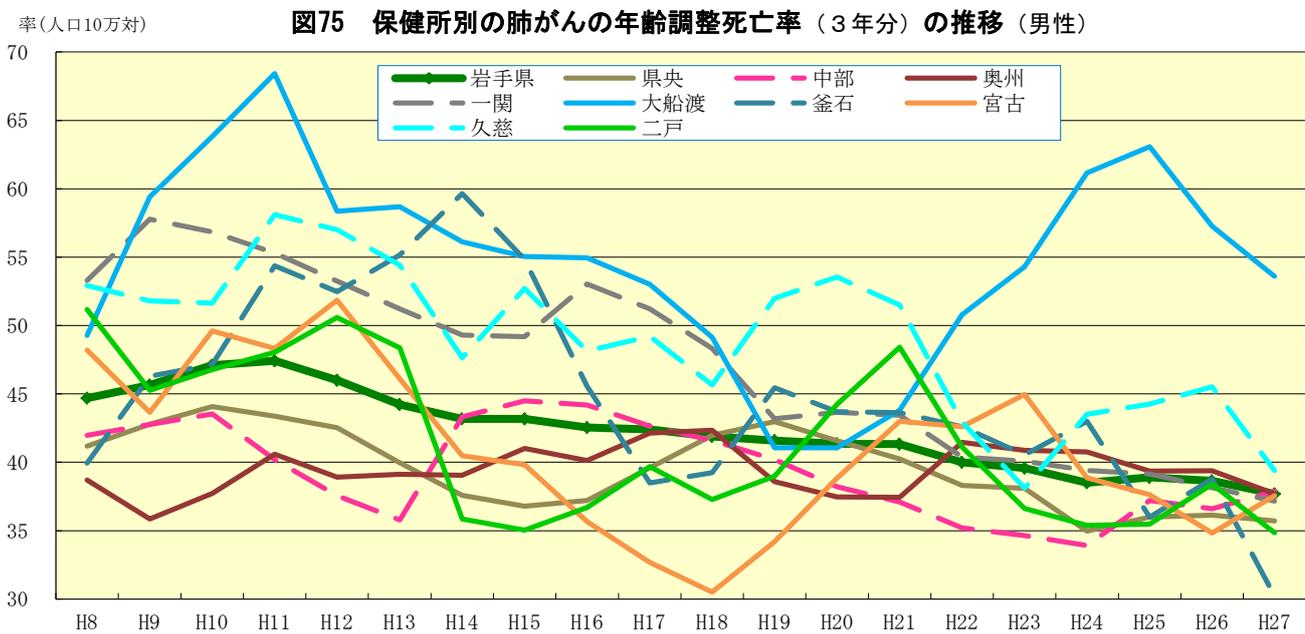
65歳未満では、久慈保健所管内が最も高く、最も低い一関保健所管内とは5.2の差となっている。

図74 保健所別肺がん年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（3年分）

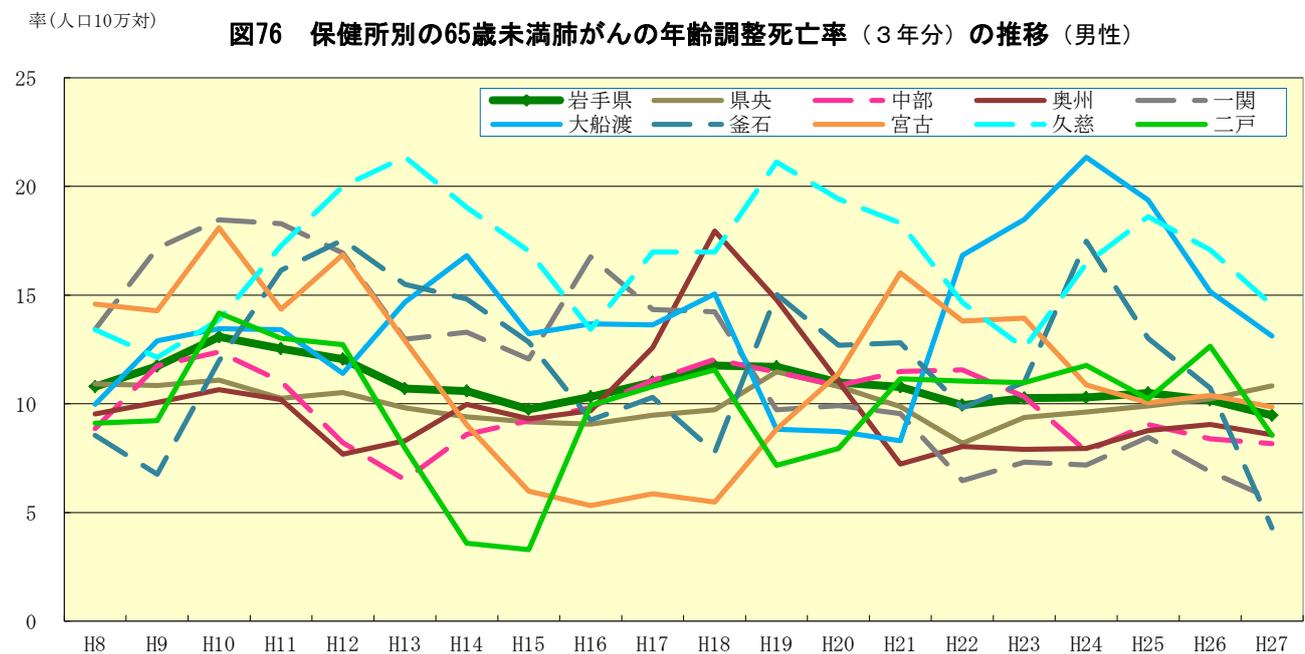
率（人口10万対）



次に、平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別**男性**の肺癌総数（図75）及び65歳未満（図76）の年齢調整死亡率の推移を示す。



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所ごとの相違がわかりにくいことから30からの設定とした



さらに、最新年（3年分）の**男性**の肺癌総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図77）。

**男性**の肺癌の年齢調整死亡率で最も高いのが大船渡保健所管内で、次に続く久慈保健所管内とも14.2もの差があり、最も低い釜石保健所管内とは23.4の差となっている。

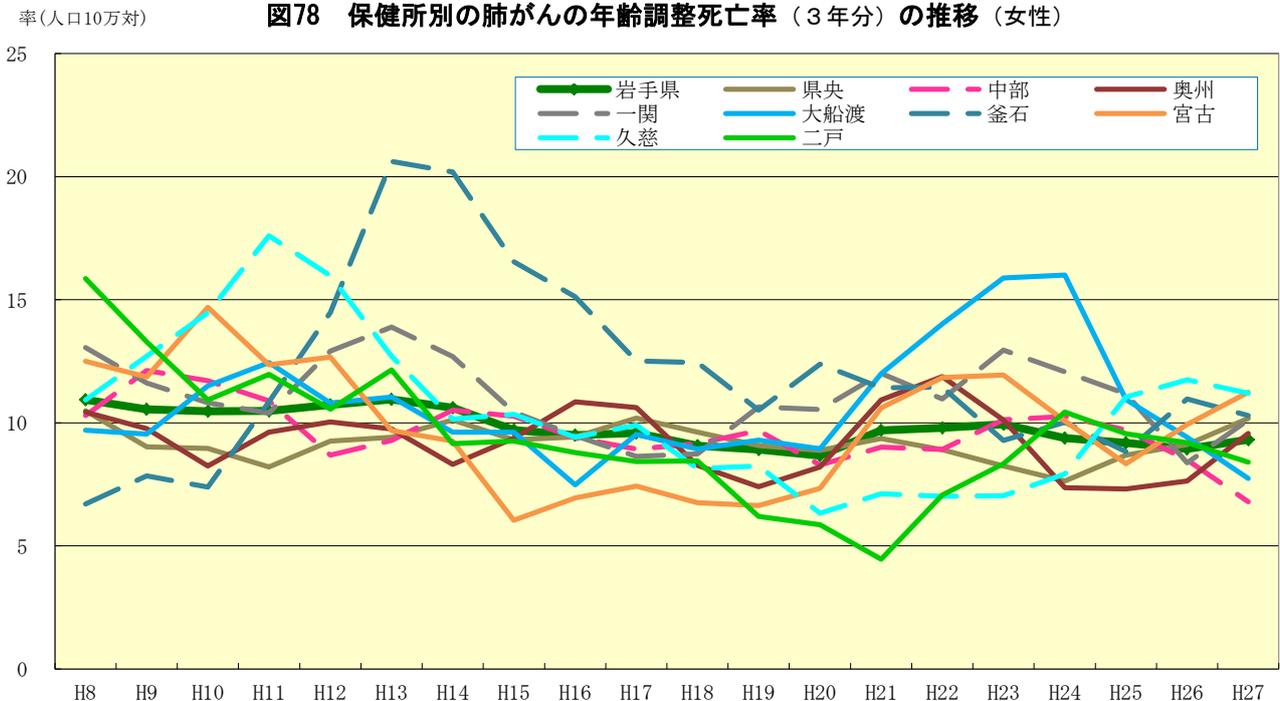
65歳未満では、久慈保健所管内が最も高く、最も低い釜石保健所管内とは10.3もの差となっている。

図77 保健所別肺がん年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（男性-3年分）



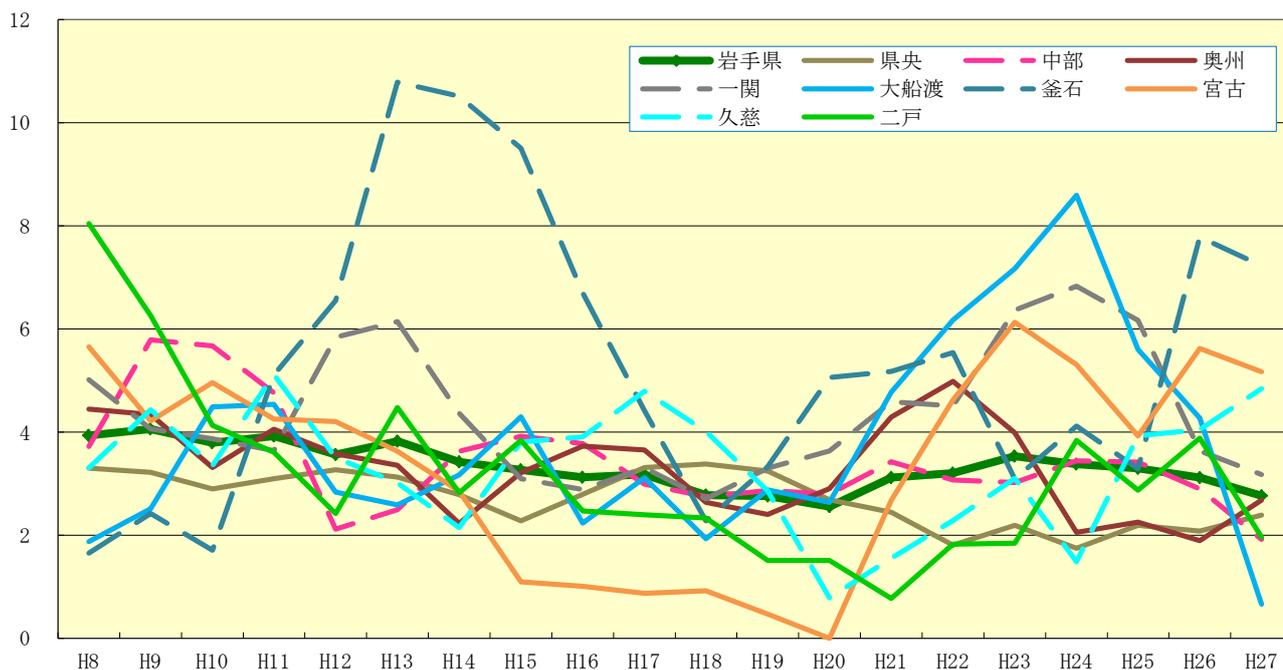
同じく、平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別**女性**の肺がん総数（図78）及び65歳未満（図79）の年齢調整死亡率の推移を示す。

図78 保健所別の肺がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移（女性）



率(人口10万対)

図79 保健所別の65歳未満肺がんの年齢調整死亡率(3年分)の推移(女性)



さらに、最新年(3年分)の**女性**の肺がん総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す(図80)。

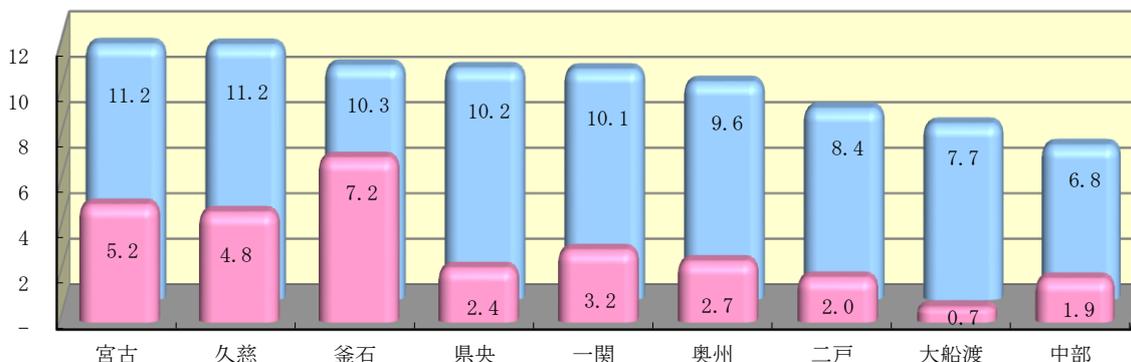
**女性**では、年齢調整死亡率が最も高いのが宮古保健所管内及び久慈保健所管内であり、最も低い中部保健所管内とは4.4の差となっている。

65歳未満では釜石保健所管内が最も高く、次に続く宮古保健所管内とも2.0の差があり、最も低い大船渡保健所管内とは6.5の差となっている。

図80 保健所別肺がん年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率(女性-3年分)

率(人口10万対)

■65歳未満 ■総数



## 5 大腸がんの推移

最新年（3年分）の岩手県の大腸がんの年齢調整死亡率は、がんの主要部位別死因の総数で第2位、男性で第3位、女性では第1位となっている。

最新年では709人が大腸がんで死亡しているが、内訳としては、男性が333人、女性が376人で、僅かではあるが、女性が40人程度多くなっている。

岩手県大腸がん死亡数最新値（H28年）709人  
内訳 男性：333人  
女性：376人

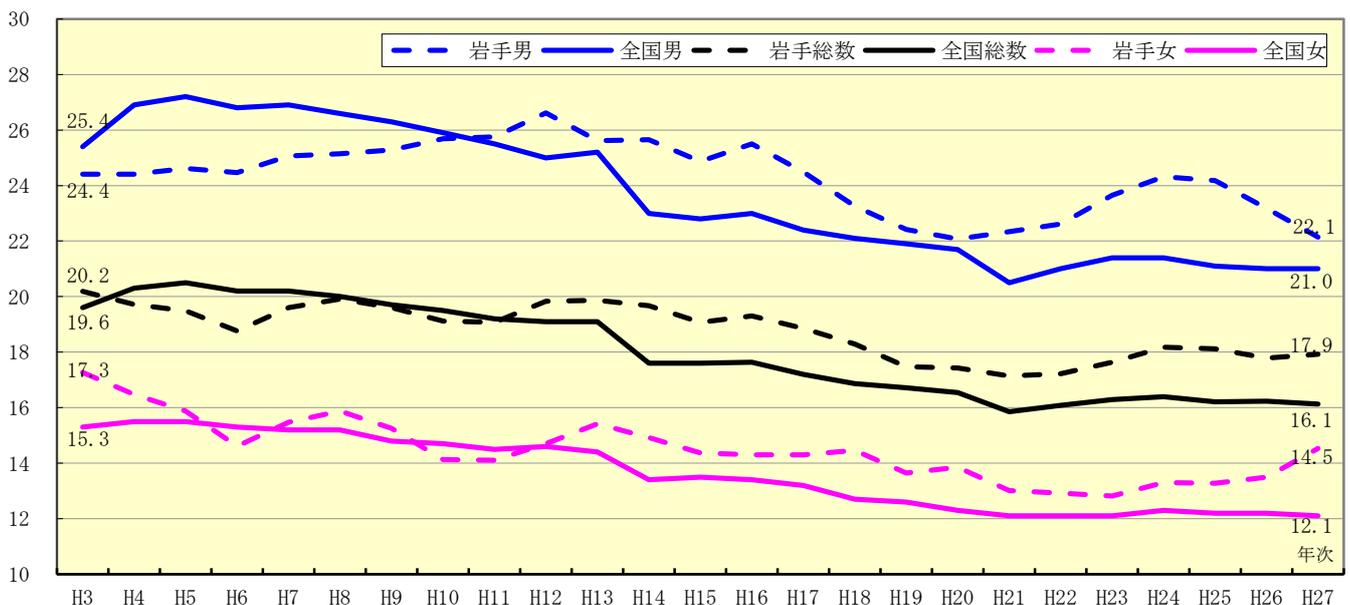
岩手県の大腸がんは平成2年からのデータであるため3年分を平均すると平成3年からの表記となる。このため、平成3年から平成27年までの全国及び岩手県の大腸がんの年齢調整死亡率の推移を示す（図81）。

全国は緩やかに減少しているが、岩手県はほぼ横ばいあるいは僅かな減少となっている。このため、平成10年頃を境に、常に全国を上回る状況が続いている。

男女別では、最新値で、男性が女性の2倍弱の値となっている。

率（人口10万対）

図81 大腸がんの年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）の推移



※縦軸の目盛りは、本来0からのスケールであるべきだが、保健所毎の相違がわかりにくいことから10からの設定とした  
※岩手県の大腸がんは平成2年からのデータであるため3年分を平均すると平成3年からの表記となる

同じく、平成3年から平成27年までの全国及び岩手県の大腸がんの65歳未満の年齢調整死亡率の推移を示す(図82)。

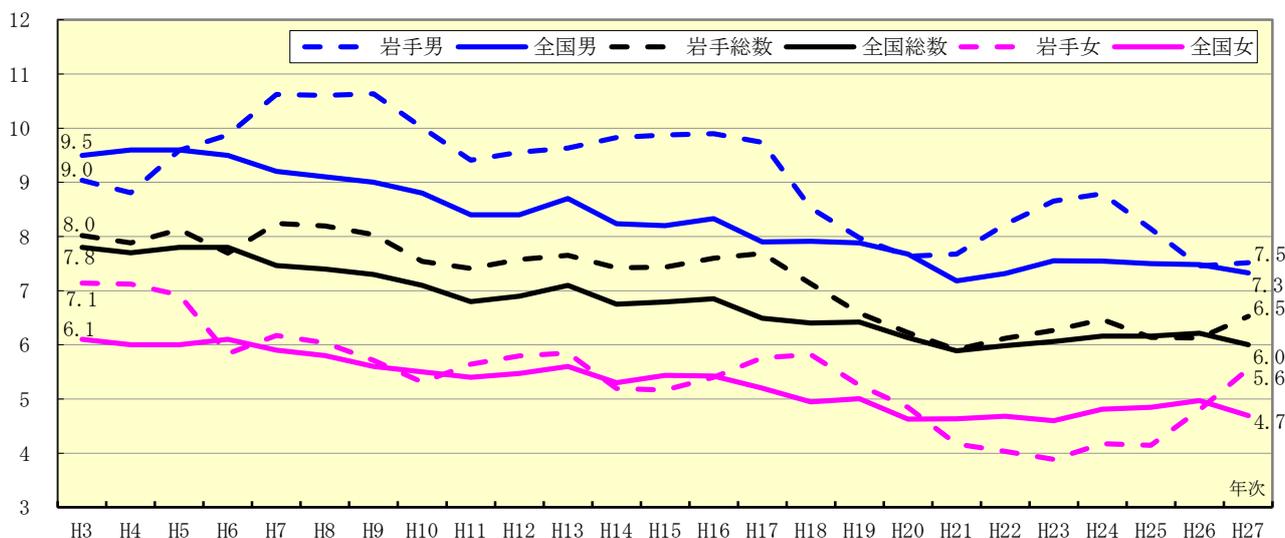
65歳未満の大腸がんは、年次による増減はあるものの、全国及び岩手県ともに緩やかに減少している。ただし、岩手県の女性は、平成25年以降増加に転じていることから、今後の動向を注視する必要がある。

男女別では、最新値で、男性が女性の1.5倍前後となっている。

全国との比較では、男女ともに、ほとんどの年次で岩手県が全国を上回って推移している。

率(人口10万対)

図82 65歳未満の大腸がんの年齢調整死亡率(岩手県のみ3年分)の推移



※縦軸の目盛りは、本来0からのスケールであるべきだが、保健所ごとの相違がわかりにくいことから3からの設定とした  
 ※岩手県の大腸がんは平成2年からのデータであるため3年分を平均すると平成3年からの表記となる

平成8年から最近年までの約20年の保健所別大腸がんの死亡数を表38に示す。年次により多少の増減はあるものの、すべての保健所管内で増加となっている。

表38 保健所別年次別大腸がん死亡数(単位:人)

	H8	H13	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H8年との差	H8を100とした際のH28の割合
県央	150	183	169	184	225	209	208	206	211	61	140.7
中部	74	101	103	96	104	95	103	101	124	50	167.6
奥州	61	71	62	80	61	83	76	92	82	21	134.4
一関	60	63	68	72	72	71	86	69	75	15	125.0
大船渡	23	31	16	35	41	34	44	31	36	13	156.5
釜石	19	20	27	33	33	27	25	33	24	5	126.3
宮古	41	38	48	61	53	69	47	63	81	40	197.6
久慈	29	32	25	32	28	29	41	28	44	15	151.7
二戸	19	29	23	29	37	42	34	40	32	13	168.4
岩手県	476	568	541	622	654	659	664	663	709	233	148.9

5年刻み

次に、平成8年から最新年までの約20年の保健所別大腸がんの年齢調整死亡率を表39に示す。

年次により多少の増減があるものの、宮古保健所管内は増加、中部保健所管内、奥州保健所管内は横ばい、それ以外の保健所管内は減少となっている。

表39 保健所別年次別大腸がん年齢調整死亡率(単年：人口10万対)

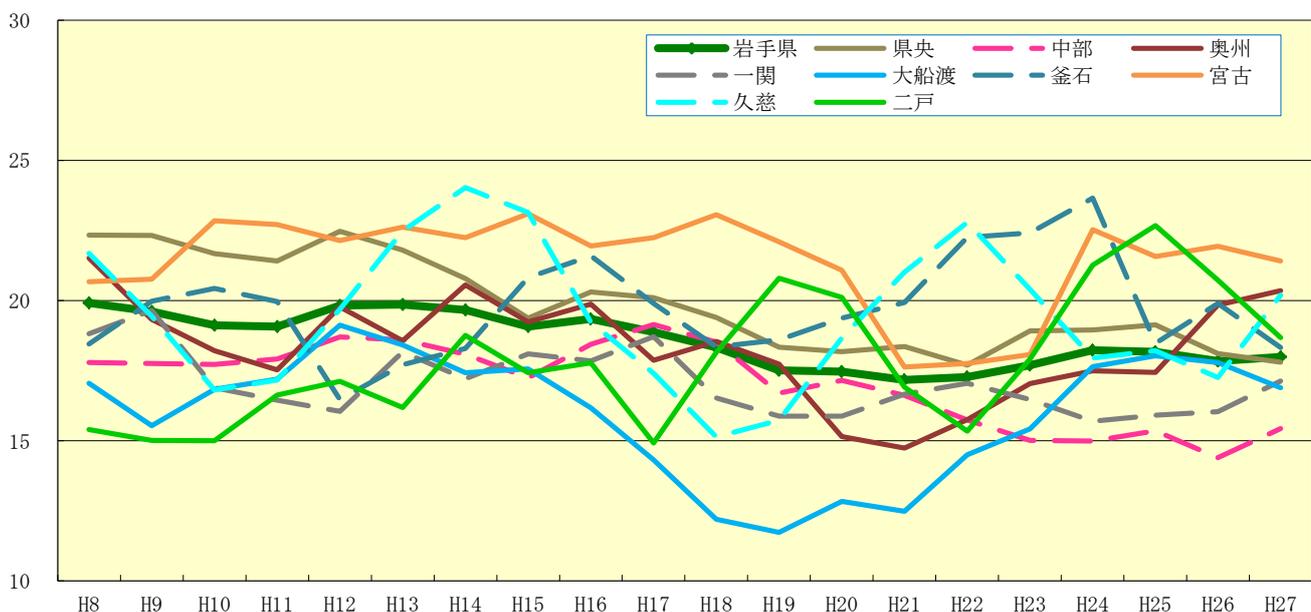
	H8	H13	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H8年との差	H8を100とした際のH28の割合
県央	23.6	24.5	17.9	17.3	20.9	18.6	17.9	17.9	17.6	-6.0	74.7
中部	18.3	20.5	17.9	13.2	16.8	14.9	14.4	14.0	17.9	-0.4	98.0
奥州	22.8	21.6	17.9	19.0	14.0	19.5	18.9	20.9	21.1	-1.7	92.5
一関	21.0	17.4	17.2	18.4	15.3	13.4	18.9	15.7	16.8	-4.2	80.0
大船渡	15.4	18.6	10.4	17.5	16.6	18.8	18.6	16.2	16.0	0.6	103.7
釜石	13.8	13.1	18.4	30.5	20.6	19.5	15.6	24.2	15.0	1.2	108.4
宮古	20.5	17.7	22.1	20.7	20.5	26.7	17.5	21.5	25.3	4.8	123.6
久慈	26.1	24.1	15.9	22.7	16.9	14.2	23.4	14.2	23.0	-3.1	88.3
二戸	16.4	18.2	16.3	17.6	22.7	23.7	21.5	16.8	17.9	1.5	109.2
岩手県	20.7	20.9	17.4	18.0	18.5	18.2	17.8	17.5	18.6	-2.0	90.1

5年刻み

平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別の大腸がん総数（図83）及び65歳未満（図84）の年齢調整死亡率の推移を示す。

図83 保健所別の大腸がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移

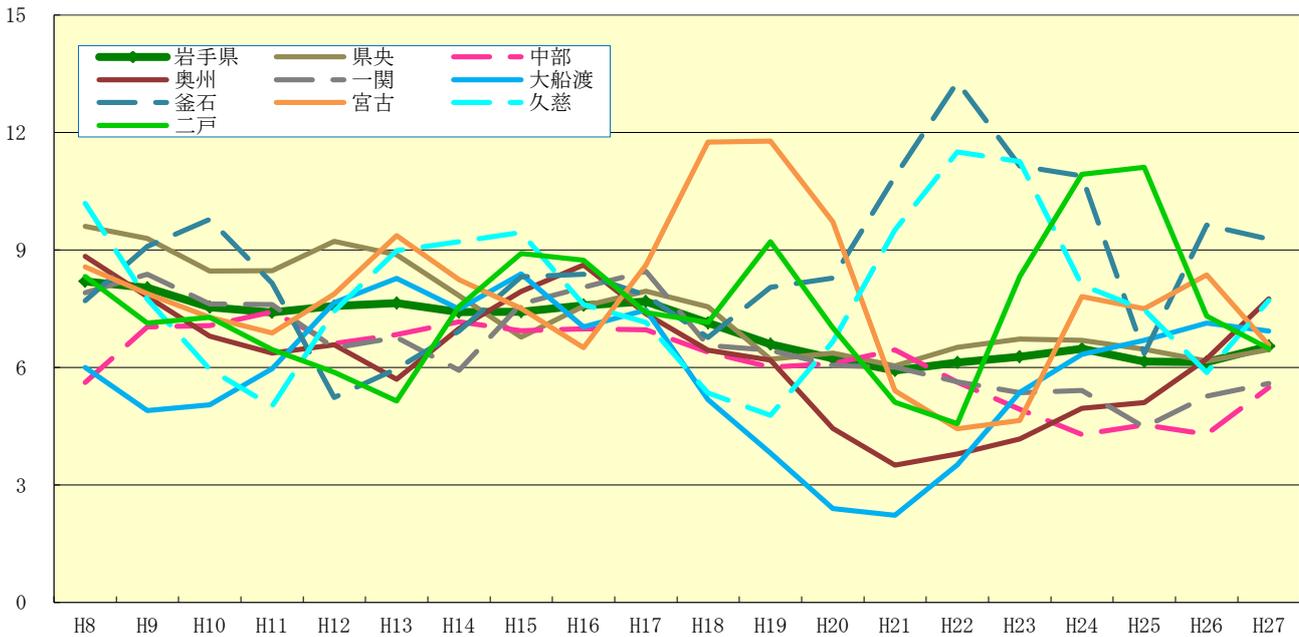
率(人口10万対)



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所ごとの相違がわかりにくいことから10からの設定とした

率(人口10万対)

図84 保健所別の65歳未満大腸がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移



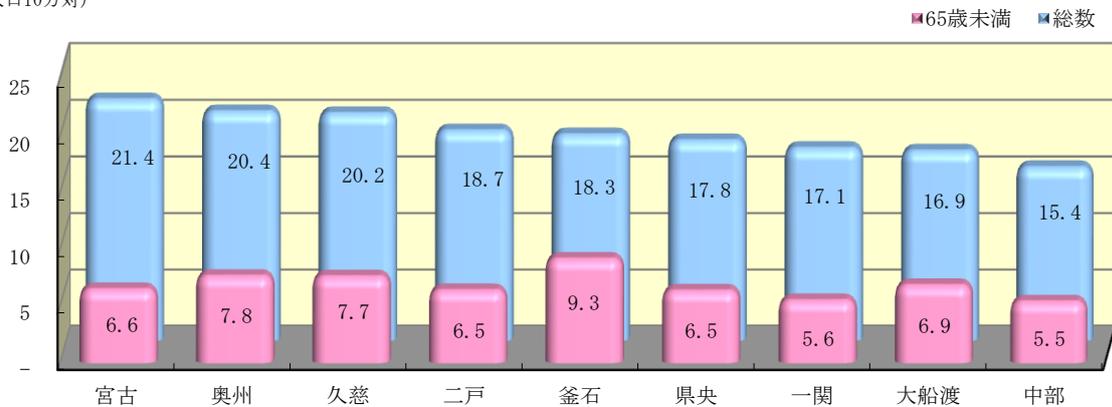
さらに、最新年（3年分）の大腸がん総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図85）。

総数の大腸がんの年齢調整死亡率で最も高いのが宮古保健所管内であり、最も低い中部保健所管内とは6.0の差となっている。

65歳未満では、釜石保健所管内が最も高く、最も低い中部保健所管内とは3.8の差となっている。

図85 保健所別の大腸がんの年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（3年分）

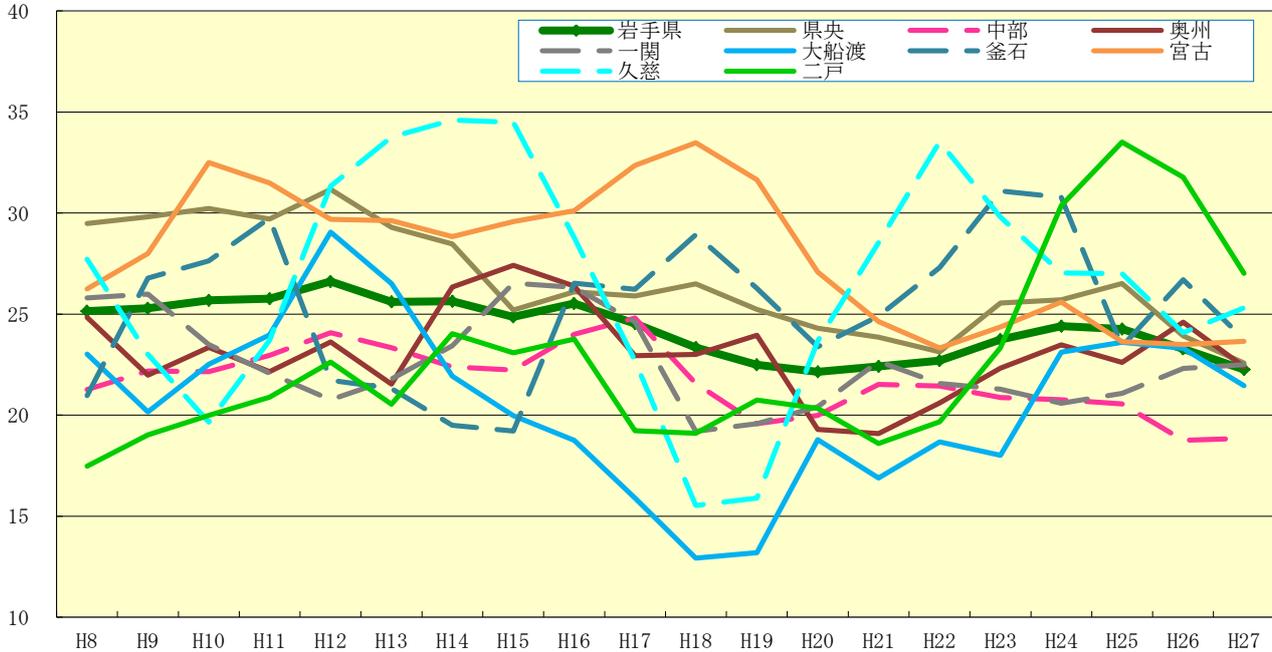
率（人口10万対）



次に、平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別**男性**の大腸がん総数（図86）及び65歳未満（図87）の年齢調整死亡率の推移を示す。

率(人口10万対)

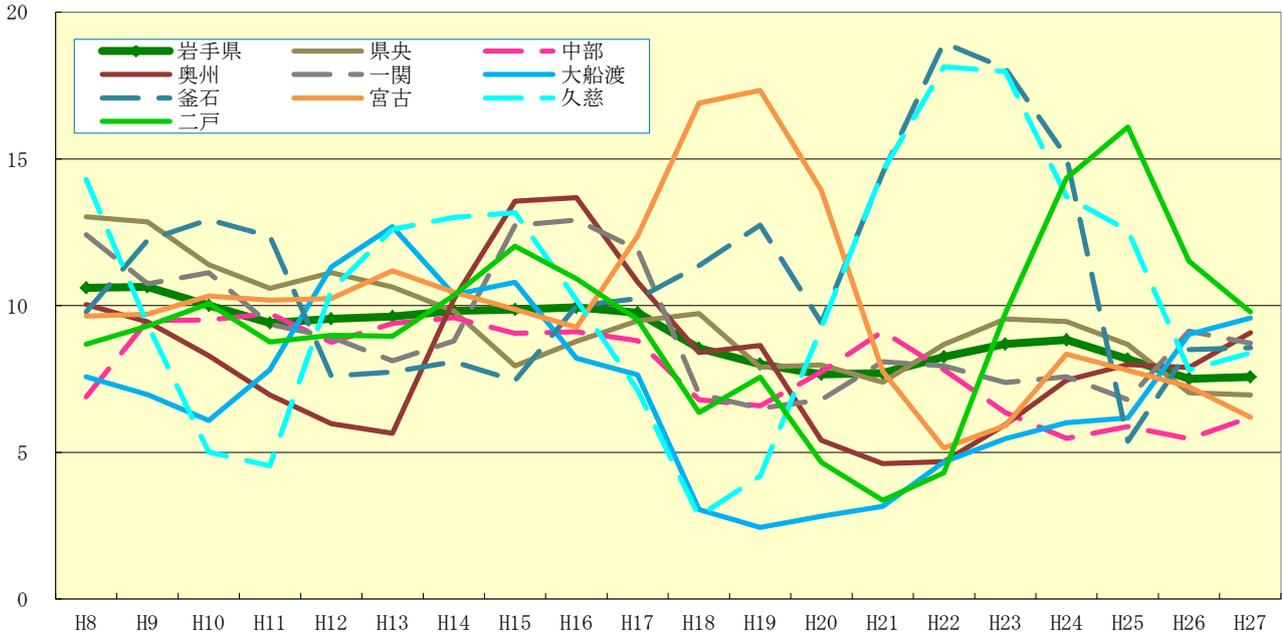
**図86 保健所別の大腸がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移（男性）**



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所ごとの相違がわかりにくいことから10からの設定とした

率(人口10万対)

**図87 保健所別の65歳未満大腸がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移（男性）**

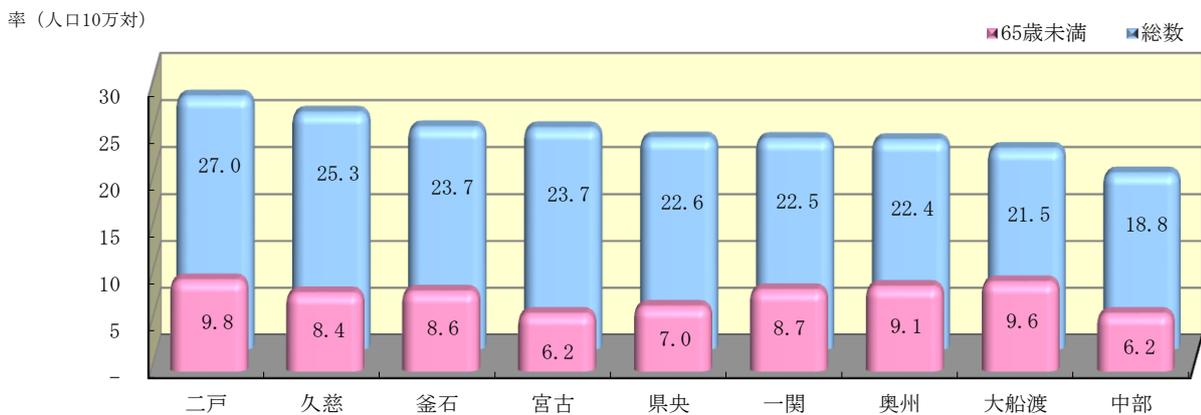


さらに、最新年（3年分）の**男性**の大腸がん総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図88）。

**男性**の大腸がんの年齢調整死亡率で最も高いのが二戸保健所管内であり、最も低い中部保健所管内とは8.2の差となっている。

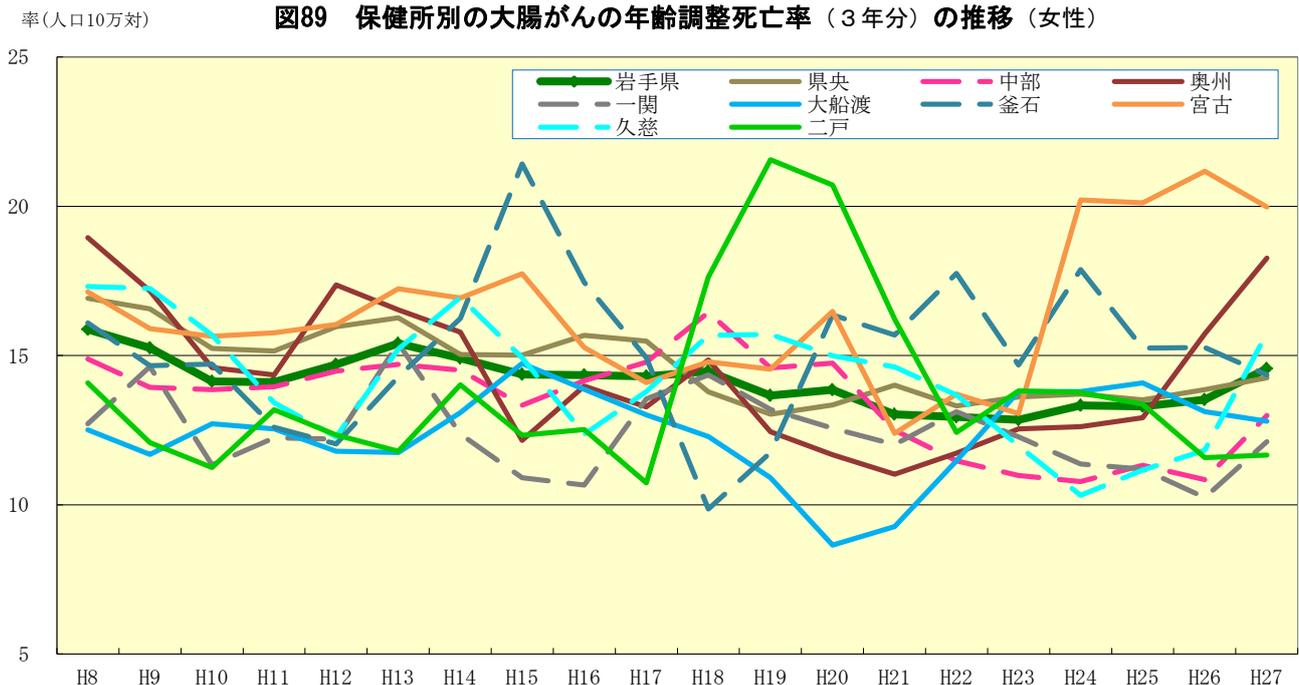
二戸保健所管内は65歳未満の年齢調整死亡率でも最も高く、最も低い中部保健所管内及び宮古保健所管内とは3.6の差となっている。

図88 保健所別の大腸がんの年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（男性-3年分）



同じく、平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別**女性**の大腸がん総数（図89）及び65歳未満（図90）の年齢調整死亡率の推移を示す。

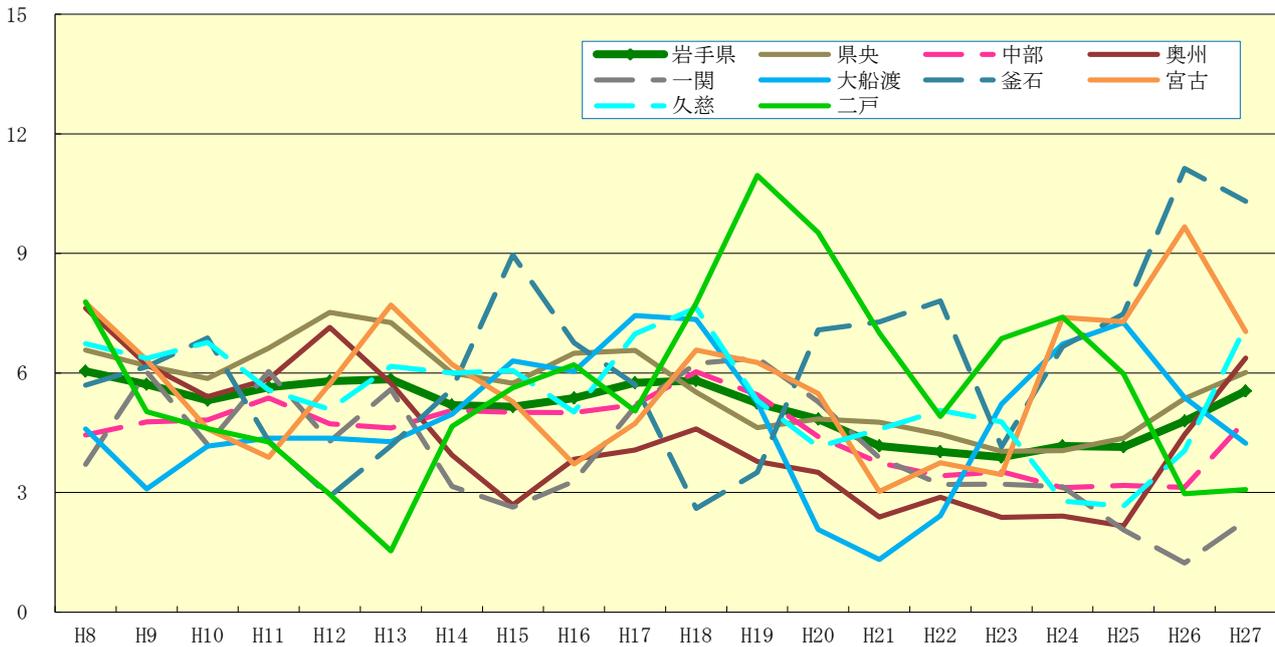
図89 保健所別の大腸がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移（女性）



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所ごとの相違がわかりにくいことから5からの設定とした

率(人口10万対)

図90 保健所別の65歳未満大腸がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移（女性）



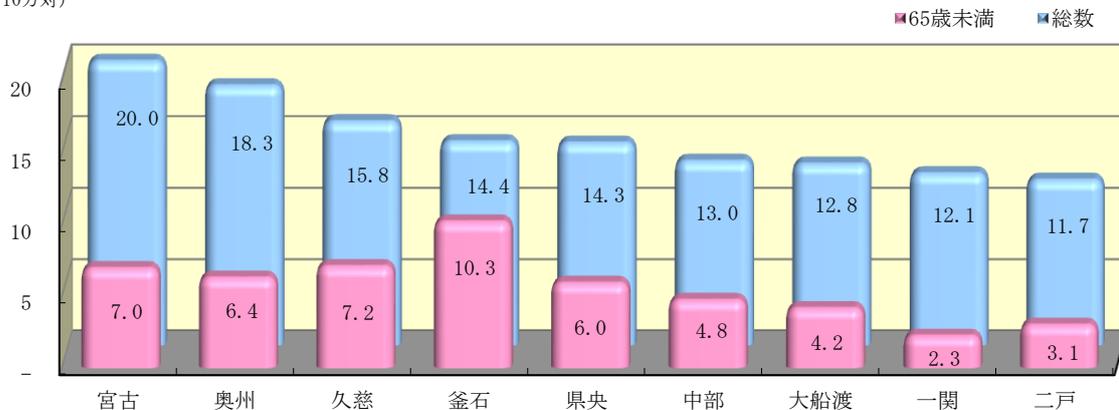
さらに、最新年（3年分）の**女性**の大腸がん総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図91）。

**女性**の大腸がん総数で最も高いのは宮古保健所管内であり、最も低い二戸保健所管内とは8.3の差となっている。

65歳未満では釜石保健所管内が最も高く、次に続く久慈保健所管内とも3.1もの差があり、最も低い一関保健所管内とは8.0の差となっている。

図91 保健所別の大腸がんの年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（女性-3年分）

率(人口10万対)



## 6 胃がんの推移

最新年（3年分）の岩手県の胃がんの年齢調整死亡率は、がんの主要部位別死因の総数で第3位、男性で第2位、女性では第5位となっている。

最新年では541人が胃がんで死亡しているが、内訳としては、男性が352人、女性が189人で、男性が160人ほど多い状況となっている。

岩手県胃がん死亡数最新値（H28年）541人  
 内訳 男性：352人  
 女性：189人

昭和60年から平成27年までの全国及び岩手県の胃がんの年齢調整死亡率の推移を示す(図92)。

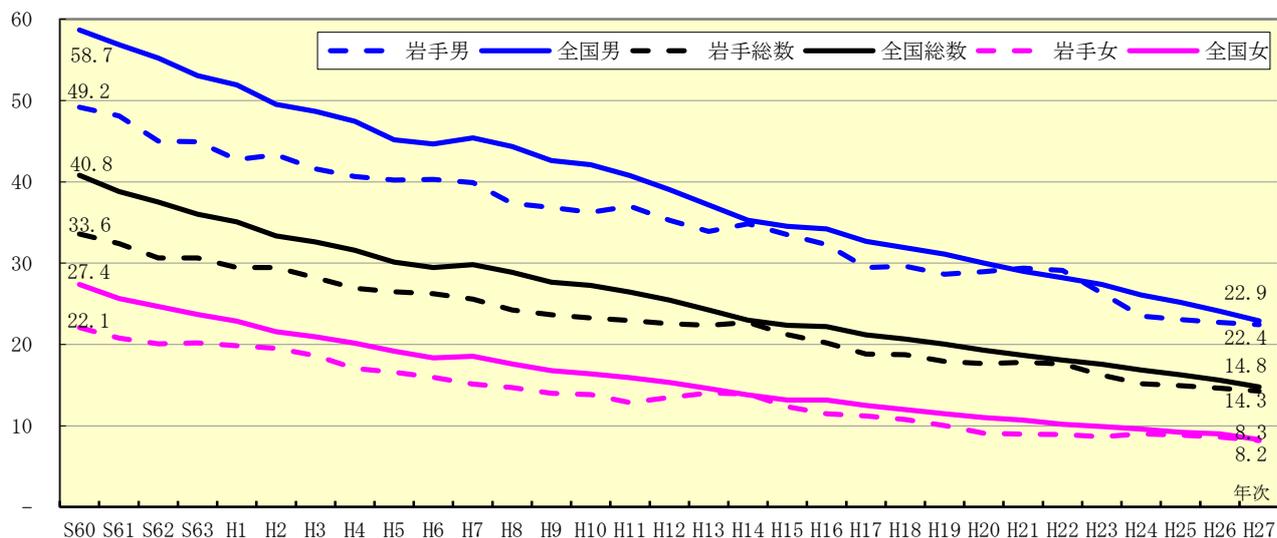
胃がんは、全国及び岩手県の男女総数及び男女別で、確実に減少している。

男女別では、最新値で、男性が女性の約2倍程度となっている。

全国との比較では、以前は全国を大きく下回っていたものが、近年はほぼ同程度となっている。

率(人口10万対)

図92 胃がんの年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）の推移



同じく、昭和60年から平成27年までの全国及び岩手県の大腸がんの年齢調整死亡率の推移を示す(図93)。

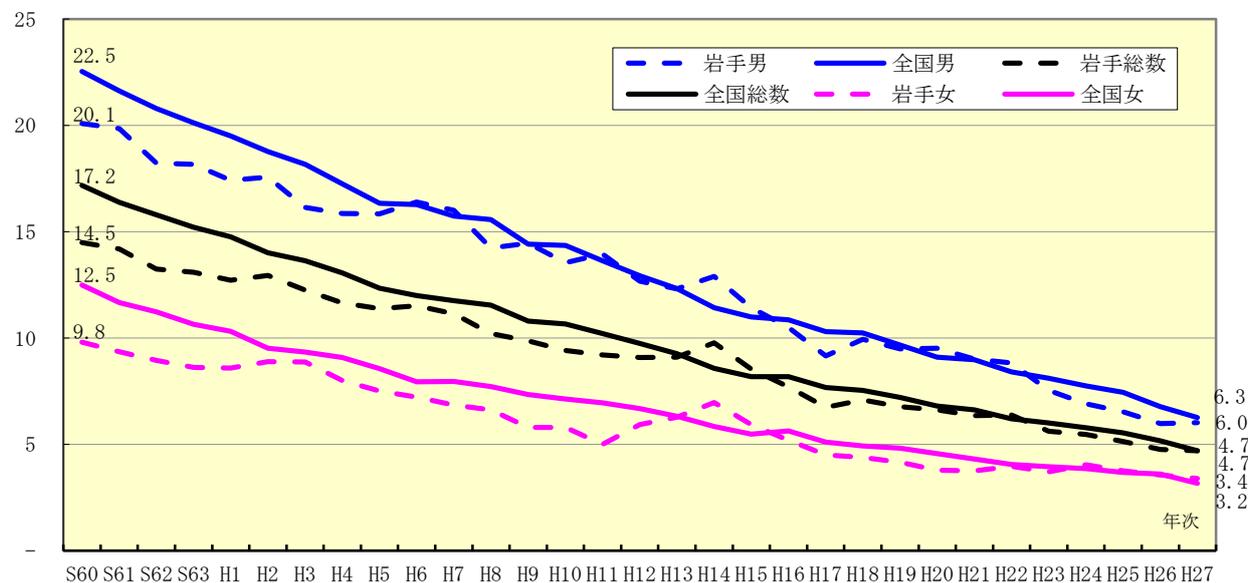
65歳未満の胃がんも、確実に減少している。

男女別では、総数同様、男性が女性の2倍程度となっている。

全国との比較では、近年、全国とほぼ同程度での推移となっている。

図93 65歳未満の胃がんの年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）の推移

率(人口10万対)



平成8年から最新年までの約20年の保健所別胃がんの死亡数を表40に示す。  
年次により若干の増減はあるものの、すべての保健所管内で横ばいとなっている。

表40 保健所別年次別胃がん死亡数（単位：人）

	H8	H13	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H8年との差	H8を100とした際のH28の割合
県央	139	161	171	145	153	147	163	143	140	1	100.7
中部	91	98	111	101	101	94	88	96	99	8	108.8
奥州	66	85	78	71	71	76	75	72	68	2	103.0
一関	84	98	78	76	59	66	77	75	80	-4	95.2
大船渡	29	28	36	33	14	38	31	37	30	1	103.4
釜石	33	35	20	22	31	22	31	35	32	-1	97.0
宮古	47	40	42	42	39	41	43	31	46	-1	97.9
久慈	23	29	29	27	16	25	27	19	23	0	100.0
二戸	24	28	25	26	24	26	30	26	23	-1	95.8
岩手県	536	602	590	543	508	535	565	534	541	5	100.9

5年刻み

次に、平成8年から最新年までの約20年の保健所別年齢調整死亡率を表41に示す。  
年次により多少の増減はあるものの、すべての保健所管内で減少している。

表41 保健所別年次別胃がん年齢調整死亡率(単年：人口10万対)

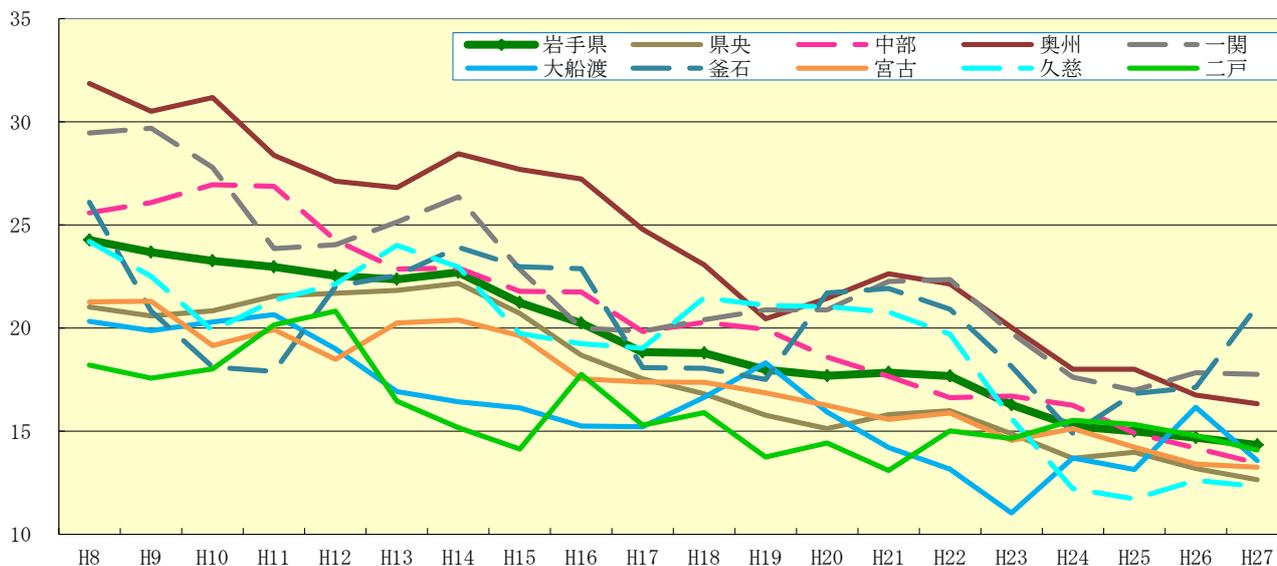
	H8	H13	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H8年との差	H8を100とした際のH28の割合
県央	21.7	21.4	18.9	13.7	13.5	13.8	14.6	11.1	12.3	-9.4	56.6
中部	22.6	22.2	19.9	16.5	16.0	16.2	12.4	14.0	13.9	-8.7	61.6
奥州	27.3	28.5	21.5	17.0	18.0	19.0	16.9	14.3	17.9	-9.4	65.6
一関	28.8	29.5	22.6	19.9	14.9	17.9	17.7	17.8	18.0	-10.8	62.6
大船渡	19.3	15.9	19.3	13.9	5.4	21.8	12.2	14.2	14.7	-4.6	76.0
釜石	26.2	24.7	12.6	14.1	16.9	13.7	20.0	17.8	25.7	-0.5	98.0
宮古	24.8	18.8	18.0	16.6	12.4	16.3	13.9	10.0	15.8	-9.1	63.6
久慈	22.4	27.0	19.3	16.7	6.8	13.2	15.2	9.3	12.5	-9.9	55.6
二戸	17.7	17.7	13.7	16.7	14.5	15.4	15.9	12.7	14.1	-3.6	79.8
岩手県	23.5	23.0	19.1	15.8	14.0	15.9	15.0	13.1	14.9	-8.6	63.4

5年刻み

平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別の胃がん総数（図94）及び65歳未満（図95）の年齢調整死亡率の推移を示す。

率(人口10万対)

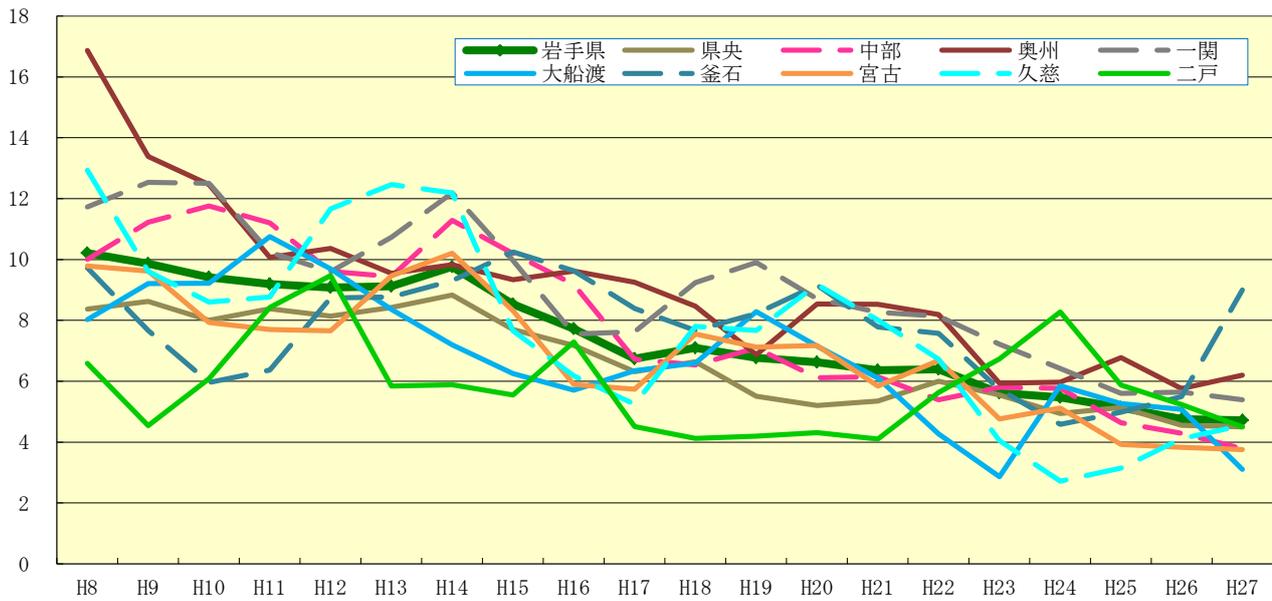
図94 保健所別の胃がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所ごとの相違がわかりにくいことから10からの設定とした

率(人口10万対)

図95 保健所別の65歳未満胃がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移

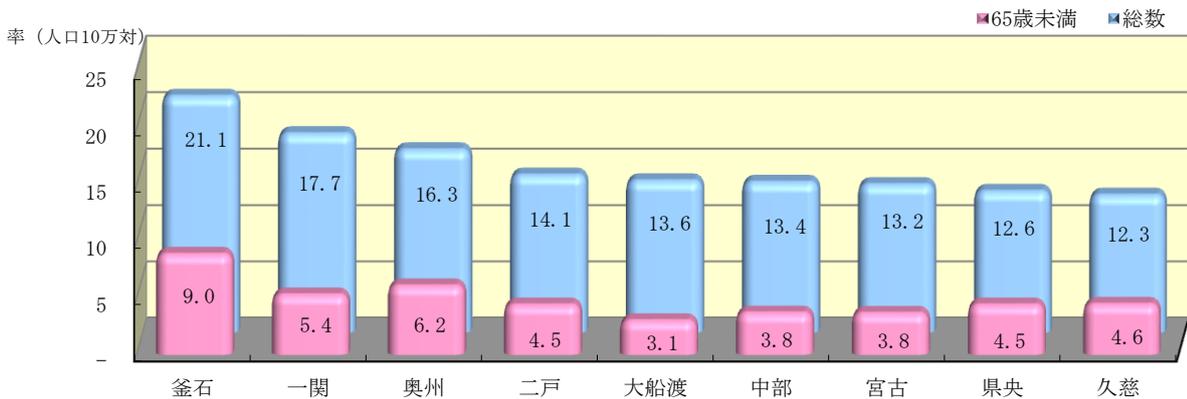


さらに、最新年（3年分）の胃がん総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図96）。

総数の胃がんの年齢調整死亡率で最も高いのが釜石保健所管内であり、最も低い久慈保健所管内とは8.8の差となっている。

65歳未満でも釜石保健所管内が最も高く、最も低い大船渡保健所管内とは5.9の差となっている。

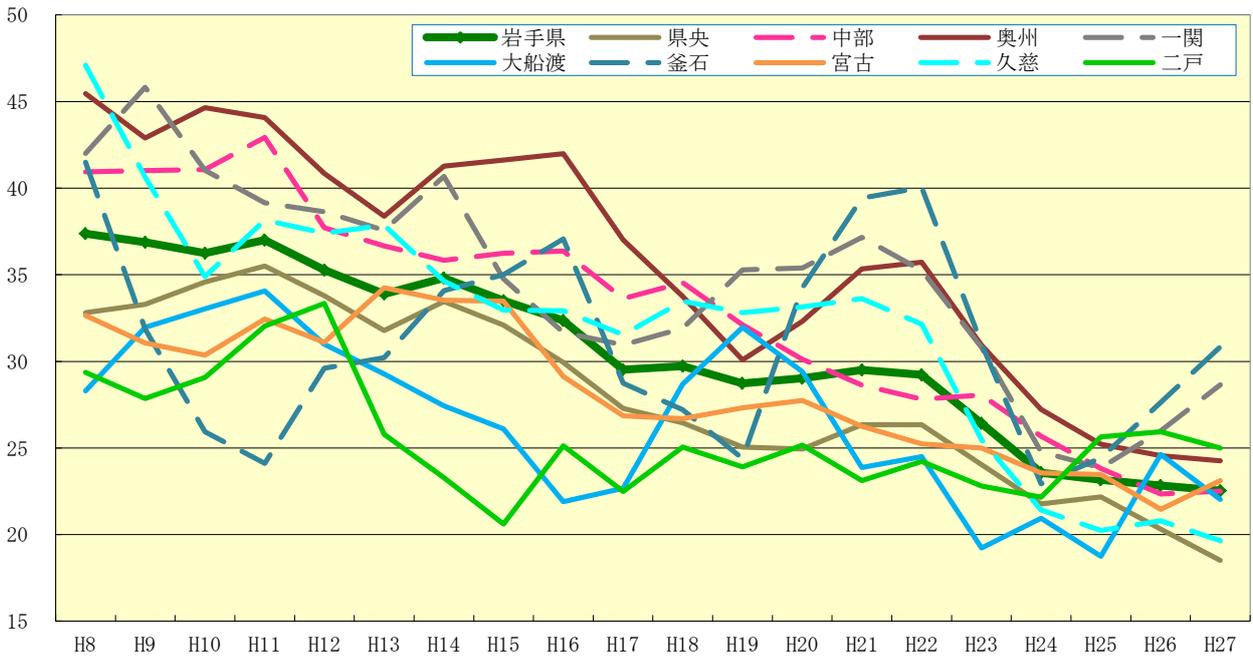
図96 保健所別の胃がんの年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（3年分）



次に、平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別**男性**の胃がん総数（図97）及び65歳未満（図98）の年齢調整死亡率の推移を示す。

率(人口10万対)

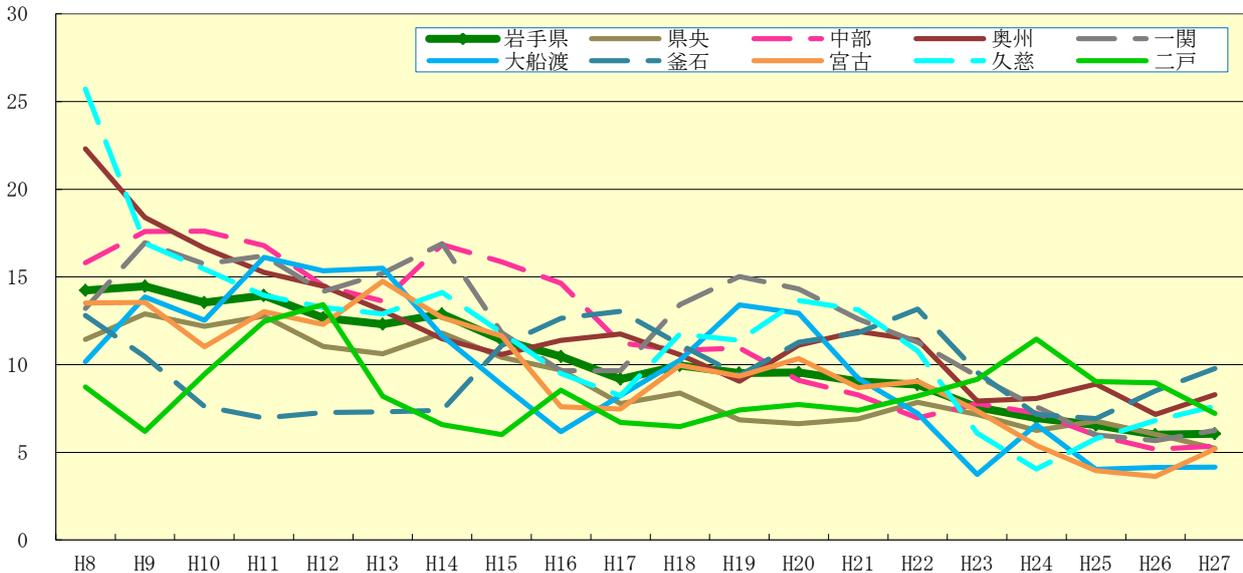
図97 保健所別の胃がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移（男性）



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所ごとの相違がわかりにくいことから15からの設定とした

率(人口10万対)

図98 保健所別の65歳未満胃がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移（男性）

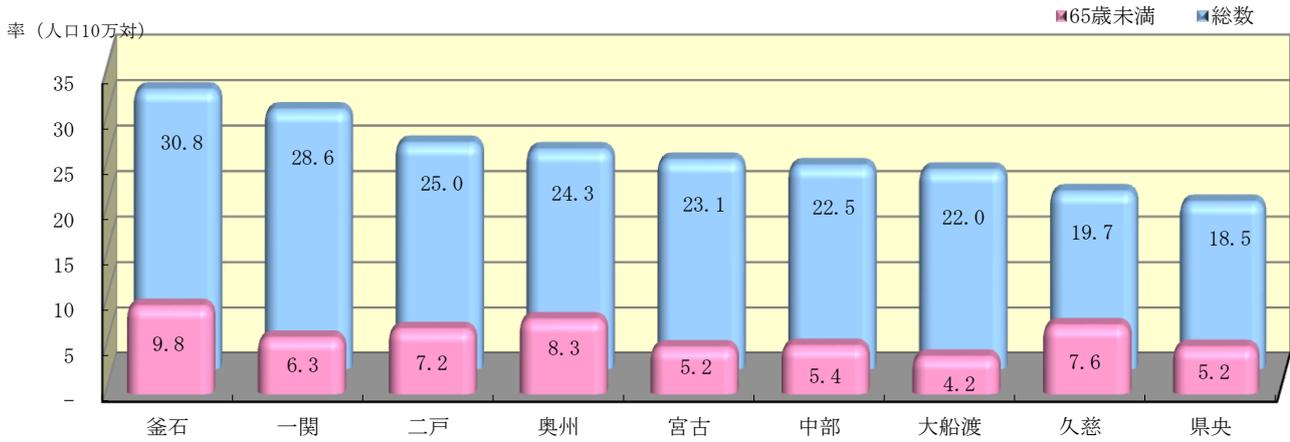


さらに、最新年（3年分）の**男性**の胃がんの総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図99）。

**男性**の年齢調整死亡率で最も高いのが釜石保健所管内であり、最も低い県央保健所管内とは12.3の差となっている。

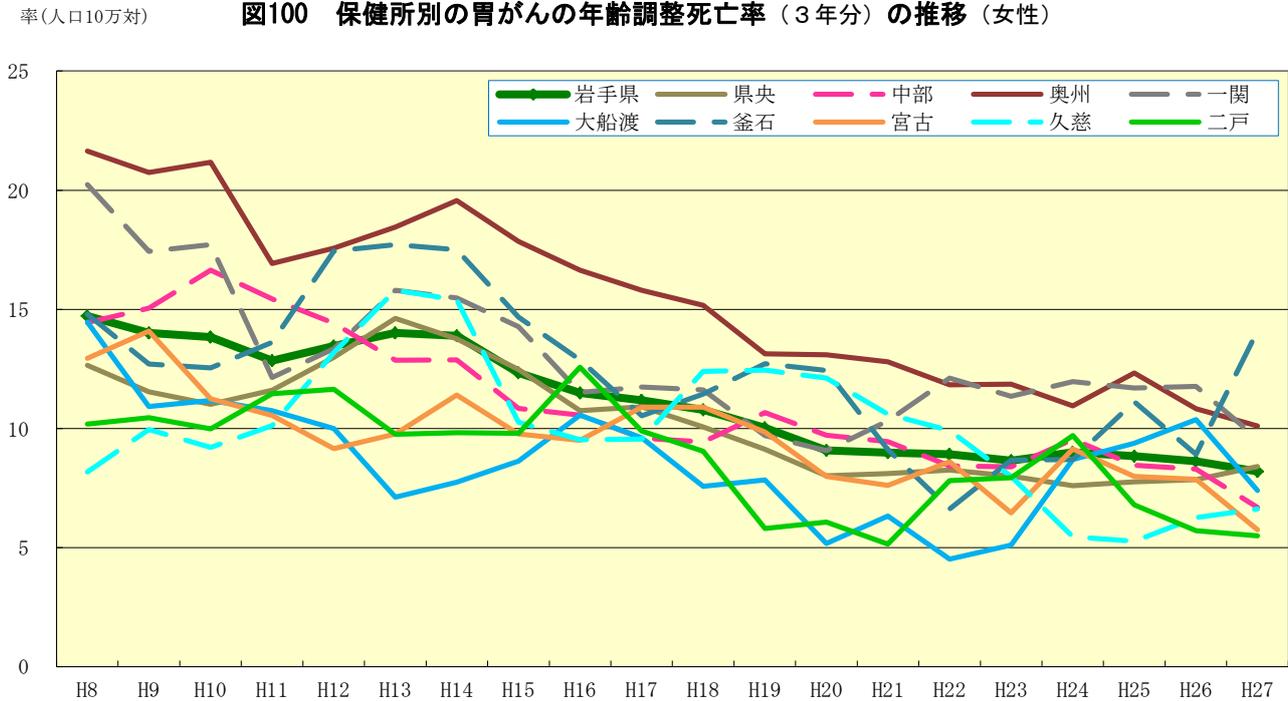
65歳未満でも釜石保健所管内が最も高く、最も低い大船渡保健所管内とは5.6の差となっている。

図99 保健所別の胃がんの年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（男性-3年分）

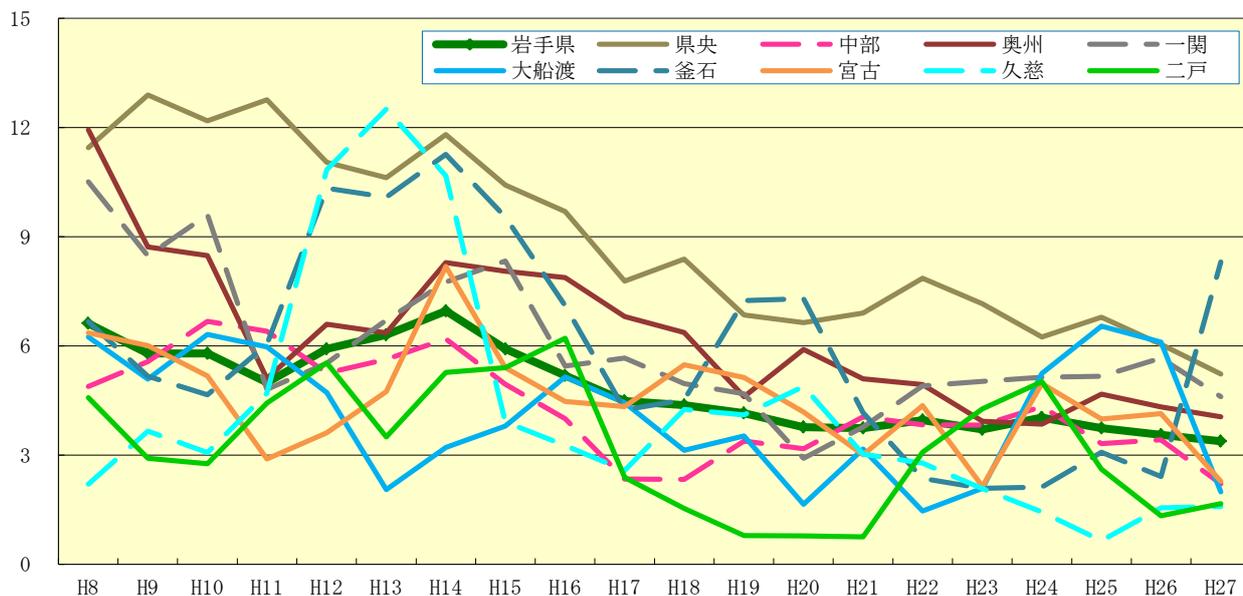


同じく、平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別**女性**の胃がん総数（図100）及び65歳未満（図101）の年齢調整死亡率の推移を示す。

図100 保健所別の胃がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移（女性）



率(人口10万対) 図101 保健所別の65歳未満胃癌の年齢調整死亡率(3年分)の推移(女性)

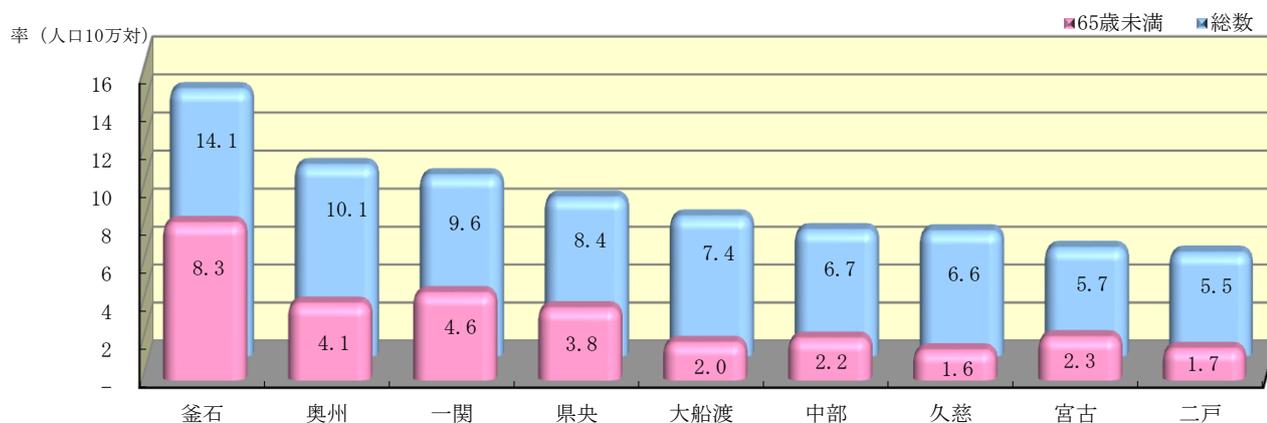


さらに、最新年(3年分)の**女性**の胃癌の年齢調整死亡率及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す(図102)。

**女性**の胃癌総数で最も高いのは釜石保健所管内であり、次に続く奥州保健所管内とも4.0もの差があり、最も低い二戸保健所管内とは8.6の差となっている。

65歳未満でも釜石保健所管内は最も高く、次に続く一関保健所管内とも3.7もの差があり、最も低い久慈保健所管内とは6.7の差となっている。

図102 保健所別の胃癌の年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率(女性-3年分)



# 7

## 乳がんの推移

最新年（3年分）の岩手県の乳がんの年齢調整死亡率は、がんの主要部位別死因の**女性**総数で第2位、**女性**65歳未満では第1位となっている。

最新年の死亡数は157人となっている。

岩手県乳がん死亡数最新値（H28年）157人

内訳 女性：156人

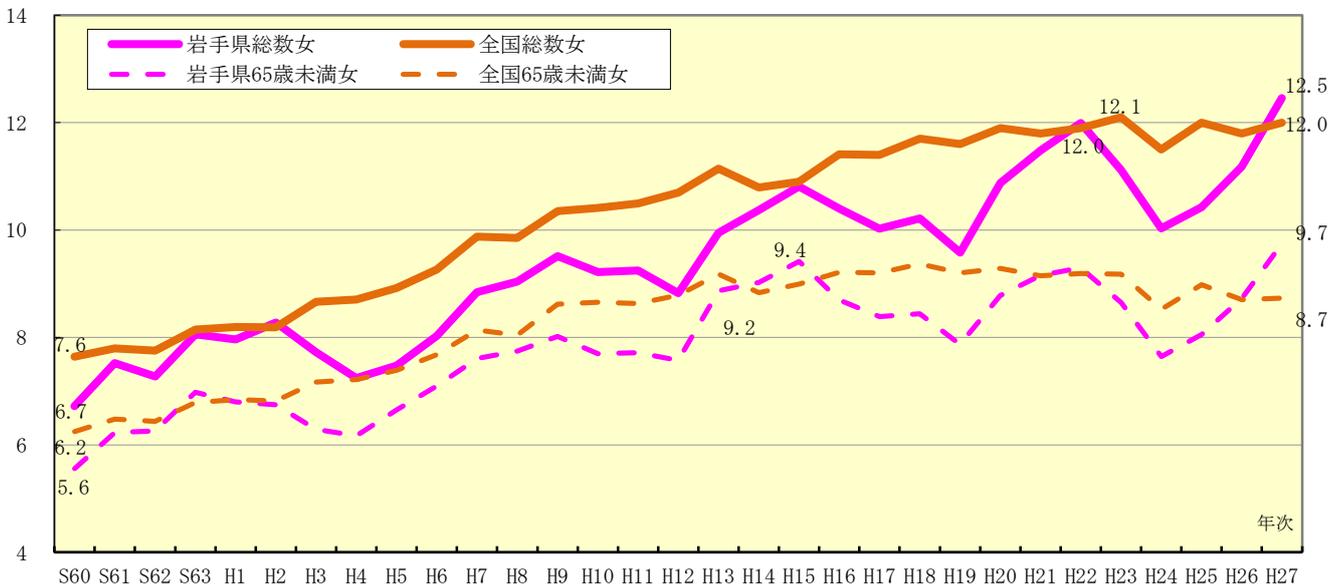
男性：1人

昭和60年から最新年までの全国及び岩手県の**女性**の乳がん総数及び65歳未満の年齢調整死亡率の推移を示す（図103）。

乳がんは、全国及び岩手県ともに確実に増加しているが、岩手県は、殆どの年次で全国を下回った推移となっている。しかし、平成24年以降、大きく増加していることから、今後の推移を注視する必要がある。

図103 乳がんの総数及び65歳未満年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）の推移

率（人口10万対）



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、相違がわかりにくいことから4からの設定とした

平成8年から最新年までの約20年の女性の保健所別乳がんの死亡数を表42に示す。

年次により多少の増減はあるものの、奥州保健所管内のみ減少しているが、それ以外の保健所管内では増加となっている。

表 42 保健所別年次別乳がん（女性）の死亡数（単位：人）

	H8	H13	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H8年との差	H8を100とした際のH28の割合
県央	34	27	42	49	42	45	53	51	58	24	170.6
中部	9	13	14	23	22	19	20	19	23	14	255.6
奥州	10	9	12	15	12	13	13	20	7	-3	70.0
一関	12	14	12	18	15	12	13	16	15	3	125.0
大船渡	6	7	7	3	7	8	5	3	13	7	216.7
釜石	5	3	7	4	4	2	7	3	9	4	180.0
宮古	9	12	7	8	12	8	15	13	10	1	111.1
久慈	2	6	3	0	6	5	8	9	11	9	550.0
二戸	3	3	3	5	3	13	10	7	10	7	333.3
岩手県	90	94	107	125	123	125	144	141	156	66	173.3

5年刻み

次に、平成8年から最新年までの約20年の**女性**の保健所別の乳がんの年齢調整死亡率を表43に示す。

年次により多少の増減があるものの、奥州保健所管内は減少、大船渡保健所管内及び宮古保健所管内が横ばい、それ以外の保健所管内は増加となっている。

表 43 保健所別年次別乳がん（女性）の年齢調整死亡率（単年：人口10万対）

	H8	H13	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H8年との差	H8を100とした際のH28の割合
県央	11.9	7.9	11.6	13.3	11.1	9.5	11.7	12.7	15.0	3.1	126.5
中部	5.0	8.7	7.5	8.6	12.3	8.9	10.6	12.0	12.8	7.7	254.3
奥州	8.3	7.0	9.3	13.6	6.7	7.3	9.4	13.7	3.5	-4.8	42.4
一関	11.3	12.8	8.4	12.6	8.9	10.0	8.3	12.6	14.0	2.6	123.3
大船渡	11.6	8.9	9.8	3.8	11.8	11.5	3.8	5.8	12.1	0.5	104.6
釜石	11.9	6.7	13.2	6.4	9.1	1.7	13.4	4.3	17.3	5.5	146.0
宮古	9.8	13.6	4.8	5.3	10.6	5.8	20.6	23.5	9.2	-0.6	93.9
久慈	2.5	13.2	3.4	0.0	8.8	8.7	14.6	11.9	19.3	16.8	779.2
二戸	6.9	9.2	3.5	11.8	6.4	25.0	18.4	12.6	15.3	8.3	219.9
岩手県	5.0	4.8	4.8	5.6	5.5	5.0	6.1	6.5	6.8	1.9	137.6

5年刻み

平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別**女性**の乳がんの総数（図104）及び65歳未満（図105）の年齢調整死亡率の推移を示す。

さらに、最新年（3年分）の**女性**の乳がんの総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図106）。

総数及び65歳未満ともに、最も高いのが宮古保健所管内であり、最も低い大船渡保健所管内とは、総数で10.8、65歳未満で11.8の差となっている。

率(人口10万対)

図104 保健所別の乳がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移（女性）

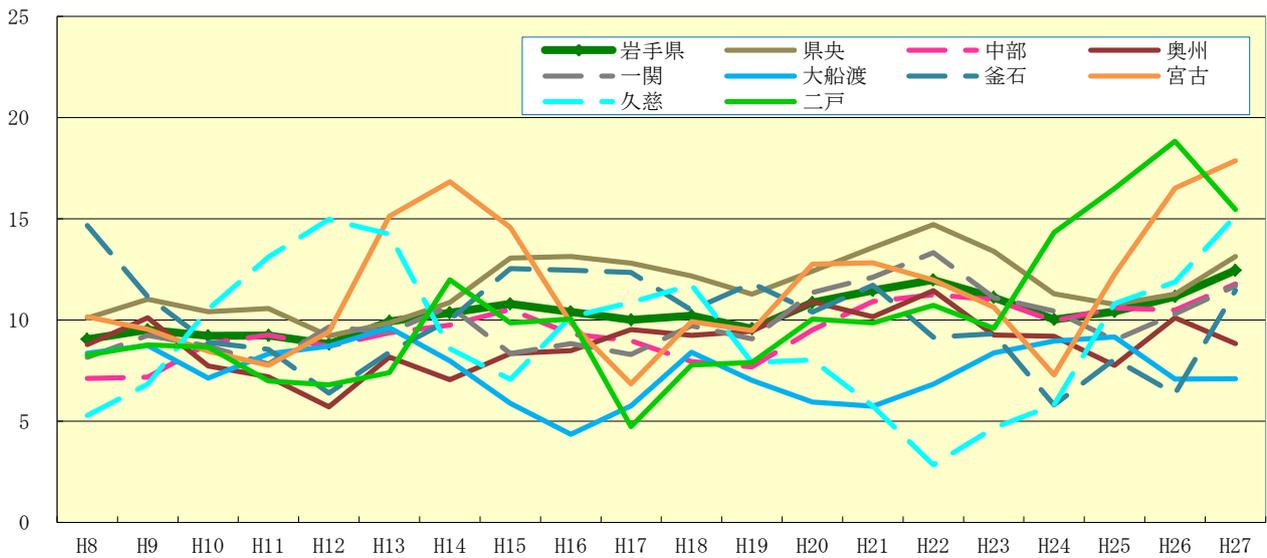


図105 保健所別の65歳未満乳がんの年齢調整死亡率（3年分）の推移（女性）

率(人口10万対)

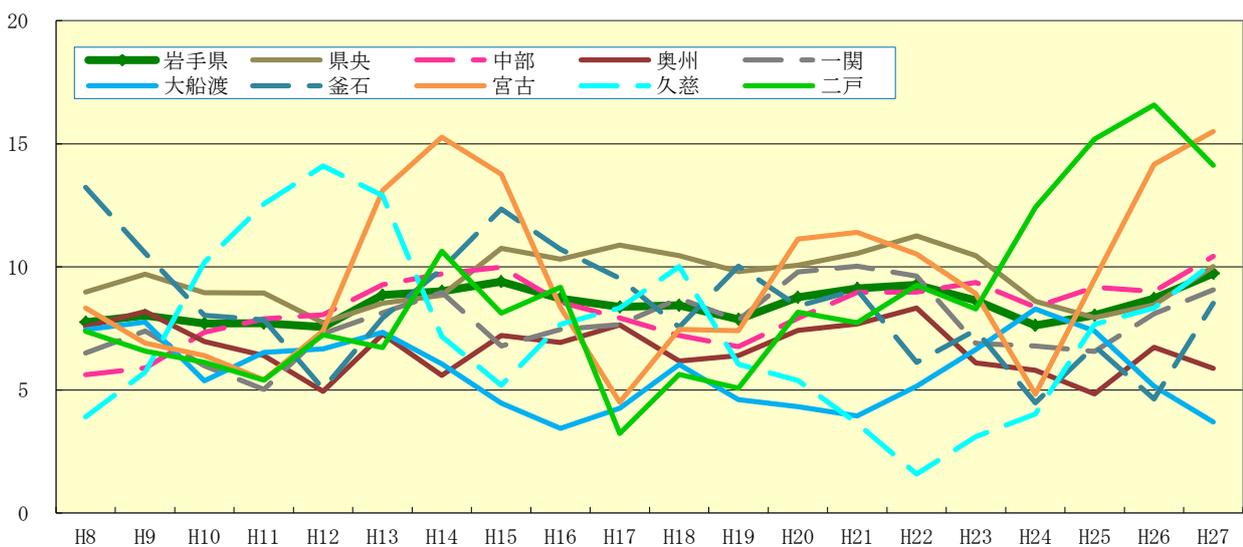


図106 保健所別の乳がんの年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（3年分）

率(人口10万対)

